

IV-399

奈良県観光・レジャー実態アンケート調査について

(社)システム科学研究所 正会員 古市 英士

(社)システム科学研究所 正会員 浅井加寿彦

建設省近畿地方建設局

安藤 勲

奈良県

林 功

1. はじめに

日本でも有数の観光地である奈良県において、現状の観光客の交通行動等の実態把握および将来観光・レジャー交通需要予測のための基礎データの収集を目的に、県内を訪れる観光客を対象とした観光・レジャー実態アンケート調査を実施した。この調査の特徴として、

- 1) 調査対象地域が奈良県全域と広域である
- 2) 春季、夏季、秋季の3時点で行われた
- 3) 個人の観光行動(立ち寄り先、ルート)が捉えられている等が挙げられ、従来の観光行動調査と比べ、より詳細な情報が入手できた。

そこで、以下に本調査の概要と結果について述べる。

2. 調査の概要

調査の概要は以下の表-1に示す通りである。

表-1 奈良県観光・レジャー実態アンケート調査の概要

	春季	夏季	秋季
調査日	H9/5/25(日) (晴れ)	H9/8/2(土) (晴れ)	H9/11/24(月) (晴れ)
調査箇所	県内主要観光地等 22箇所	県内主要観光地等 58箇所 (県南部のアドア施設 38箇所を含む)	県内主要観光地等 27箇所 (高速道路のIC等 6箇所を含む)
配布件数	13,330	10,272	39,550
回収件数 (回収率)	1,977 (14.8%)	1,064 (10.3%)	3,121 (7.9%)

また、調査対象者、調査方法は以下の通りである。

〔調査対象者〕施設の来訪者（ただし、複数のグループの場合は引率者・代表者を対象）

〔調査方法〕施設の出入口において調査員の手渡し配布、後日郵送回収

3. 調査の内容

本アンケート調査の構成と内容は以下に示すとおりである。

質問A) 調査当日の行動や満足度について

- ・グループ人数・属性、旅行費用・交通費、宿泊数・宿泊地、満足度

質問B) 今回の旅行の交通行動について

- ・今回の旅行での訪問先、訪問目的、到着時刻・出発時刻、交通手段、利用IC
- ・奈良県内の旅行ルート

質問C) 過去の奈良県への観光について

- ・過去の奈良訪問の有無、過去の観光旅行(時期、目的地、交通手段、旅行費用)

質問D) 回答者の個人属性について

- ・居住地、性別、年齢、職業、年収、自家用車保有台数、奈良県内で次に行きたい観光地、自由記述

4. 奈良県を訪れる観光客の実態

① 出発地構成

隣県である大阪府からの割合が約40%と3季を通じて最も高い。次いで、奈良県内からの割合が約10~15%となっている。また、夏季や秋季では東日本、西日本からの割合が約20%と高くなっている。

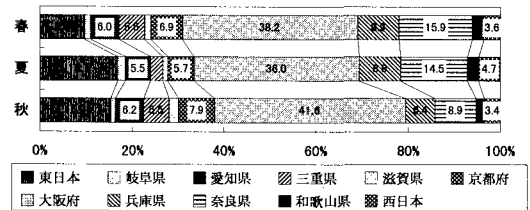


図-1 観光客の出発地構成

② グループ構成

観光客のグループ形態を見ると、「家族・親戚」が約60%と最も多く、次いで「友人・知人(恋人)」の約20%となっている。

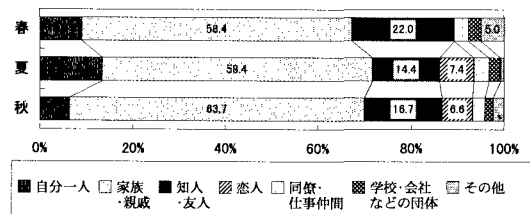


図-2 観光客のグループ構成

③ 宿泊の状況

夏休み中である夏季調査と3連休である秋季調査では宿泊の割合が高くなっている。

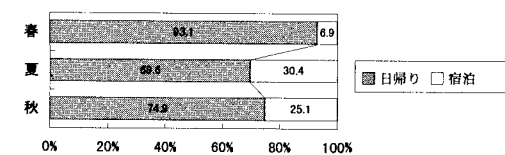


図-3 観光客の宿泊状況

④ 過去の奈良県への訪問

過去に奈良県を観光で訪れたことのある人の割合が3季とも約97%であり、リピーターの割合が非常に高い観光地であることがわかる。

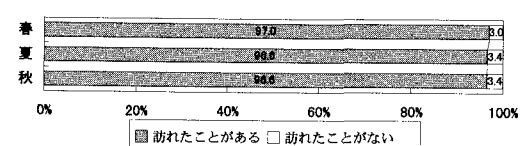


図-4 過去の奈良県への訪問

Keywords: 奈良、観光実態調査

(社)システム科学研究所 京都市下京区四條烏丸西月餅町 62 住友生命ビル、phone 075-221-3022/fax 075-231-4404

5. 奈良県を訪れる観光客の行動特性

奈良県北部の観光地を観光交通特性等を踏まえ以下に示すゾーンに分割し、それぞれの観光地別の利用状況や観光客の観光地間周遊状況の整理を行った。

表-2 観光地ゾーン

ゾーン番号	ゾーン名	主な観光地
1	奈良	東大寺、奈良公園、春日大社、十輪院、奈良ドリームランド
2	西ノ京	薬師寺、唐招提寺、あやめ池遊園地、平城宮跡
3	生駒	生駒山上遊園地、宝山寺
4	信貴	信貴山、信貴生駒スカイライン
5	天理	石上神社、長岳寺
6	斑鳩	法隆寺、中宮寺、法起寺、法輪寺
7	長谷・室生	長谷寺、室生寺、宇太水分大社
8	二上・当麻	当麻寺、ふたかみ公園
9	山の辺	大神神社
10	葛城	葛城山、一言主神社
11	明日香	石舞台古墳、橿原神宮、高松塚古墳、岡寺、壺坂寺、談山神社
12	吉野	吉野山

① 観光地別の入込客数

観光資源の豊富な「奈良」「斑鳩」「明日香」等では観光入込客が多い。季節ごとに見ると、いずれの観光地も夏季には入込客数が大幅に落ち込んでいる。

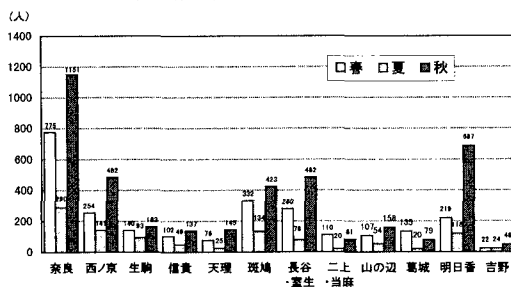


図-5 観光地別の入込客数

② 観光地別の平均滞在時間

観光地での平均滞在時間を見ると、「奈良」「明日香」など多くの観光施設を有する観光地では平均滞在時間が長くなる傾向にある。季節別に見ると、春季と秋季が同じ傾向を示しているのがわかる。

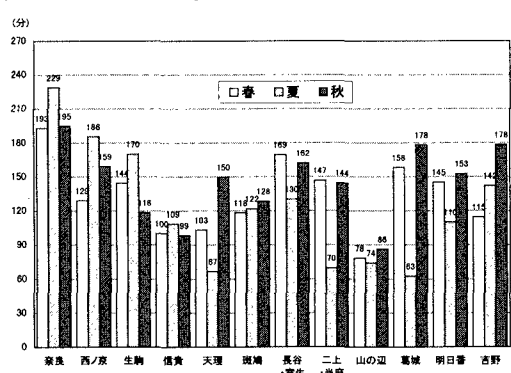


図-6 観光地別の平均滞在時間

③ 奈良県観光客の周遊数分布

観光客が、奈良県内で訪れた観光地ゾーン数を見ると、1箇所からのピストン型が最も多く全体の約60%である。次いで、2箇所の20%、3箇所の10%の順で、周遊型の割合は40%であり、訪問箇所数の分布は3季とも同じ傾向を示している。

これを主な出発地別に見ると、「愛知県」「中部以東」「中国以西」等の遠方から訪れる観光客は平均訪問観光地数が多く、「大阪府」や「奈良県内」等の周辺府県からは平均訪問観光地数が少なくピストン型の割合が高いといえる。

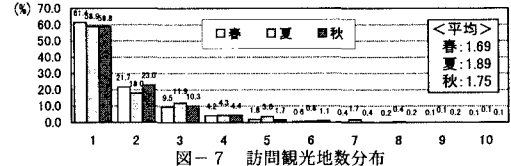


図-7 訪問観光地数分布

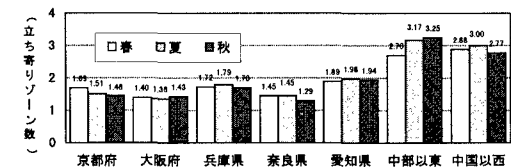


図-8 出発地別の平均訪問観光地数

④ 奈良県内の周遊パターン

奈良県の観光地間の周遊状況を見ると1箇所からのピストン型が上位にランクされている。ピストン型、周遊型のいずれのパターンにおいて「奈良」「斑鳩」「明日香」を起点とした行動パターンが多いのがわかる。これは観光客の嗜好のみならず奈良県内の交通網の整備状況による制約も影響しているものと考えられる。

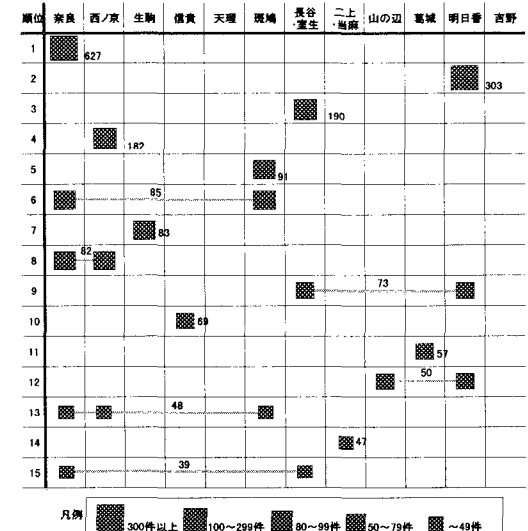


図-9 周遊パターン《秋季》

6. おわりに

本調査によって奈良県を訪れる観光客の観光行動の実態を知る上で貴重なデータを得ることができた。今後はこれらのデータをもとに道路整備との関連分析など様々な活用を考えていく。最後に、本調査を実施するにあたって多大なるご協力を頂いた近畿地方建設局奈良国道工事事務所および奈良県道路建設課、ならびに調査票の設計等で数多くの有益なご助言を頂いた愛媛大学工学部朝倉教授および熊本大学工学部溝上教授に感謝の意を表します。